

日立のぞみ会の親子プログラミング教室を見学しました。

8月4日（日）午後、下松市の日立労組の組合会館2階で開催された親子プログラミング教室全4回コースの4回目を見学しました。小学校4～6年の子どもたちと保護者が対象で、午前6組、午後7組が参加されました。

小型のパソコン「ラズベリーパイ」と子ども向けプログラミング言語「スクラッチ」を用いて学習し、最後に「フォークリフト型ロボット」を動かす講座です。一人一台のPCを準備し、待つことなく全員が体験できるようにされていましたが、今回は残念ながら定員10組に対し、少し定員割れでした。

親子で参加することで、親子がお互いに相手を見直し、会話が弾むきっかけになるそうです。修了証に親子でプログラミングを行っている写真を貼るなど、参加者が喜ぶように工夫されていました。



プログラミング授業風景



フォークリフト型ロボットの操作

<日立のぞみ会>

- ・日立製作所を定年退職した技術者が小学校の理科の実験を支援するために2011年に結成した団体。
- ・プログラミング教室は2017年からで今回が3回目。子どもへの教え方等については、小学校の先生を講師に招いて勉強し、先生には今も顧問的存在で、参加していただいているとのこと。先生にとっても、来年度から始まるプログラミング教室の検討材料になっているそうです。
- ・永田会長を中心に、良くまとまった団体で、メンバーの一人一人が積極的で楽しそうに活動されていました。子供たちが学習して分かった時の嬉しそうな顔を見るのが楽しいと言われていました。会長の事務所にメンバーが出入りし、ボランティアの企画・相談が行われるそうです。メンバーの平均年齢はかなり高いですが、老人の居場所としてとても居心地が良いとのことでした。